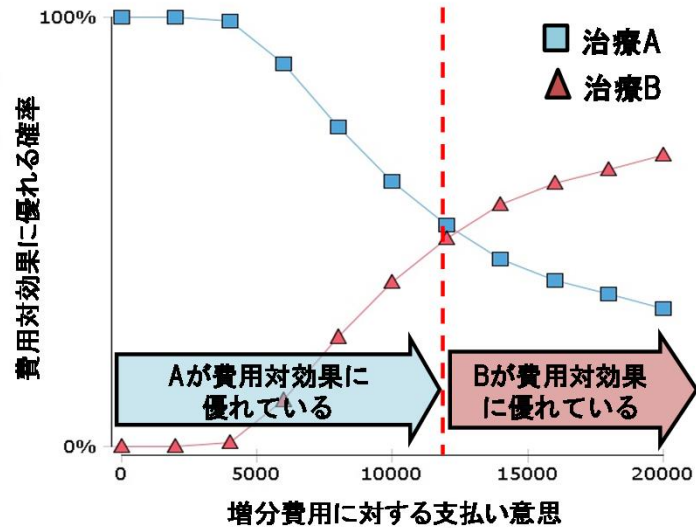


Fig. 3 アプレピタント投与延長による悪心・嘔吐改善効果の費用対効果受け入れ曲線

支払ってもよいと思われる各費用に対して  
治療が費用対効果として優れているかを示す



治療に対して支払ってもよいと思われる値段

FP療法：約5,000円/日、BEP療法：約12,000円  
以上でAPR投与延長が費用対効果として受容可能であり、設定した閾値の16,500円/日を下回っていた。

